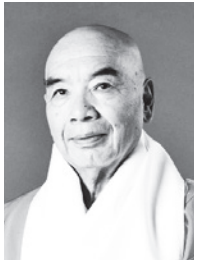


全国協議会 ニュース

2021年1月1日発行 第341号

発行所：特定非営利活動法人
全国骨髄バンク推進連絡協議会
〒101-0031 東京都千代田区東神田 1-3-4KT ビル 3階
TEL：03-5823-6360 FAX：03-5823-6365
発行責任者：田中重勝 題字：仲田順和 (会長)
https://www.marow.or.jp E-Mail:office@marow.or.jp

新年のご挨拶



全国骨髄バンク
推進連絡協議会
会長

仲田 順和

(真言宗総本山・
醍醐寺座主)

新年あけましておめでとうございます。

昨年、世界中が大きな転換期を迎えた1年となりました。世界的なコロナ禍の蔓延により、人々の生活様式がつかないスピードと規模で変貌しました。物理的に人と人が寄り添うことが難しい時代を迎えてしまいました。誰もが予想しなかったことです。しかし、心と心が触れ合い、お互いに

支え合うことは妨げられません。骨髄バンクの設立推進運動と全国協議会の結成30周年を迎えた昨年は、患者さんにとって大きな福音をもたらす年でもありました。長らく懸案となっていた、AYA世代のがん患者さんの妊孕性温存費用問題が国の助成制度となるという大きな流れができました。昨年「ウイズコロナ」という言葉が良く聞かれます。たとえ困難な状況にあっても、患者さんとそのご家族に対する支援は、形を変えても続けていきます。

できることを一つ一つ、確実に積み重ねて患者さんの幸福に少しでも寄り添うような活動成果を今年も導くことができることを祈念申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。



骨髄・さい帯血
バンク議員連盟
会長
衆議院議員

野田 聖子

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。昨年は新型コロナウイルスが全世界で猛威を振るい、今なお人々の社会経済活動に大きな影響を与え続けています。それは、私たちが取り組んでいる骨髄・さい帯血バンク事業も例外ではありませんでした。しかし、本事業の安定とさらなる発展は、どのような状況にあっても確実に成し遂げていかなければなりません。骨髄バンク事業を支えているのは、ボランティアの皆様や、献血、ドナー登録をしてくださっている方々の善意です。その思いがしっかりと患者さんに届くように、今後も皆様と力を合わせて環境整備に取り組んで参りたいと思います。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

コロナ禍で献血者、ドナー登録者が減少しています。ご協力をお願いします。お近くの献血ルームまで！

生殖医療への支援拡充について ～野田聖子議員 特別講演～

第65回日本生殖医学会学術講演会・総会が12月3日(木)、4日(金)にWEB開催されました。菅政権下で不妊治療がクローズアップされる中、衆議院議員 野田聖子氏(骨髄・さい帯血バンク議員連盟会長、不妊治療への支援拡充を目指す議員連盟幹事長)が生殖医療への支援拡充について特別講演されましたので紹介します。

『2020年は不妊治療に関して大きな一歩をしるせた1年であった。20年前は、不妊治療は隠さなければならぬものという風潮があり残念であった。妊娠を望む方が多くの方々に励まされるような法律を作りたいと考えていた。』

最大の問題は高額な治療費である。不妊治療は堂々たる医療として保険適用としていく。保険適用に2年かかるので、その間は助成金制度を拡充す

る。年収条件も撤廃し、不妊治療費用と助成金の額の差を、助成金を保険適用並(現行の2倍程度)にすることで対応する予定。ただし、子どもを希望しない方には強制するものではないという理解を進める事も必要。

また、事実婚の場合子どもの身分に不安があり子どもを持たなかったり、先送りしたりするケースがある。法律婚だけではなく事実婚も含めて、どんな方でも不妊の不安があればアクセスできるように包括的に取り組む。

不妊治療という枠組みだけではなく、少子化対策として*保険適用で費用の軽減を図る、*AYA世代の患者さん対策、今までは後回しにされていた妊孕性温存にも取り組む、*不育症については不妊治療に含めずに別枠として検査の段階から後押しする、*治療のやめ時、その先の親になるための選択肢のアドバイスを受けられる環境を築き、この国で治療して良かったと思ってもらえるようにしていきたい。』

骨髄バンクの最新情報をお知らせする

骨髄バンク NOW

〈MONTHLY JMDP(12月15日発行)より抜粋〉

■日本骨髄バンクの現状(2020年11月末現在)

	10月	11月	現在数	累計数
ドナー登録者数	3,116	2,876	531,010	844,639
患者登録者数	226	226	1,838	60,622
移植例数	109 (23)	89 (17)	—	24,946 (1,122)

※()内は末梢血幹細胞移植の実施数(国際間含む)

■11月の区分別ドナー登録者数

献血ルーム/705人、献血併行型集団登録会/2,119人、集団登録会/4人、その他/48人

■11月の年齢別ドナー登録者数(現在数)

10代 3,205人/20代 83,554人/30代 137,851人
40代 224,259人/50代 82,141人

■11月の20歳未満の登録者229人

■11月末までの末梢血幹細胞移植(PBSCT)累計数：1,076件(国内ドナー→国内患者)

注)数値は速報値のため訂正されることがあります。

新年のご挨拶



厚生労働省健康局
難病対策課
移植医療対策推進室
室長

田中 彰子

謹んで新年のお祝いを申し上げます。
平成3年に骨髄バンク事業が開始されて以来、公益財団法人日本骨髄バンクを介した骨髄や末梢血幹細胞の移植は、累計で2万4千件を超えており本事業の発展に貢献頂いている全国のボランティアの皆様方や関係者の方々に、この場をお借りしまして深く感謝を申し上げます。

厚生労働省といたしましては、移植を希望する患者の方々にとって、病気の種類や病状に応じた造血幹細胞移植が行われ、その生活の質の向上が図られるよう、今後も、関係者の皆様の御意見も伺いながら、造血幹細胞の適切な提供の推進に取り組んでまいります。

また昨年は、日本のみならず世界中で新型コロナウイルス感染症の流行による外出自粛等が行われ、骨髄等移植やドナー登録への影響が生じました。しかし、そのような中においてもドナー登録者の確保のため、全国のボランティアの皆様方や関係者の方々のご尽力のおかげで、新規のドナー登録者数や骨髄等移植件数は下半期においては回復傾向にあります。

本年は、ウィズコロナに向けた造血幹細胞移植医療のあり方や、骨髄等移植に繋がるドナーの確保方策に向けた検討をはじめ、昨年に引き続き、ドナー登録者の住所不明保留者対策、職場や家庭等に対する骨髄等提供への理解を促進するための普及啓発を行いたいと考えております。

結びに、造血幹細胞移植対策事業の推進に当たり、貴協議会の益々の御支援、御協力を賜りますよう心からお願い申し上げますとともに、会員皆様方の御健勝、御活躍を心より祈念いたしまして、御挨拶とさせていただきます。



公益財団法人
日本骨髄バンク
理事長

小寺 良尚

新年あけましておめでとうございます。本年も宜しくお願ひ申し上げます。

全国骨髄バンク推進連絡協議会様におかれましては、血液疾患に苦しむ患者さんへの経済的支援や全国各地での催事協力など幅広い事業を担われてきました。コロナ禍にあっても、患者さんとそのご家族を支える点において当法人と軌を一にしておりますので、新しい年もまた共に頑張っていきたいと思います。

日本骨髄バンクは今年12月に設立30周年を迎えます。10月には東京で記念式典を挙行すべく準備を進めております。ドナー登録者は現在53万人、累計移植件数は2万5000例に迫っております。ACジャパンなど各種PRの蓄積により社会の認知度も年々高まり、ドナー登録だけでなく寄付金や企業の「ドナー休暇制度」導入といった様々な形のご貢献となって結実しております。

近年の医療技術の進歩に伴い、新たな治療方法が次々に生まれて成果を挙げつつありますが、その多くは造血幹細胞移植とハーモナイズすることにより最良の効果が期待されるものです。こうした時代こそ改めて骨髄バンク事業の原点を見据えて患者救命につながるものが肝要です。当法人といたしましても、例えばドナー獲得では従来の紙媒体等による呼びかけに加え、SMSやLINEなど若者に浸透している情報通信ツールを活用し、ドナープールの維持と質的向上の両立を図るなど、コロナ禍においてもこれまでの事業を停滞させることなく、むしろこれを機会により拡張すべく努める所存です。

末筆ではございますが、貴会の益々のご発展を祈念いたしまして新年のご挨拶といたします。



日本赤十字社
血液事業本部
本部長

高橋 孝喜

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

日本赤十字社は、「人間のいのちと健康、尊厳を守る」ことを使命として、様々な分野で人道支援活動を行っており、造血幹細胞事業においても、造血幹細胞提供支援機関及び臍帯血供給事業者としてこの使命を果たすべく、関係者の皆様方と連携し、様々な取り組みを行っております。

当社は造血幹細胞提供支援機関として、厚生労働省と連携して造血幹細胞移植支援システムの開発に取り組んできましたが、昨年11月より同システムの新機能である医療機関支援機能を稼働開始いたしました。同機能は、造血幹細胞移植に係る骨髄移植ドナーや臍帯血の申込みを一元的に行い、移植医療機関の運用利便性の向上及びコーディネート期間の短縮を図り、早期の移植実施による患者の方々への貢献を目的としています。

新型コロナウイルス感染防止対策で活動が制約されているなか、貴協議会の皆様方もご苦勞されていることと存じます。私共は引き続き適切な事業運営に努め、一人でも多くの方の移植医療に貢献できるよう、貴協議会をはじめ関係団体の皆様と一丸になって、事業の充実、発展に取り組んでいく所存です。これからも患者の想いに寄り添い、骨髄・末梢血の提供支援、臍帯血の提供を推進して参りますので、今後ともご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

末筆ながら、貴協議会の益々のご発展と皆様のご健勝を祈念いたしまして新年のご挨拶とさせていただきます。



全国骨髄バンク
推進連絡協議会
理事長

田中 重勝

明けておめでとうございます。
新型コロナウイルスの感染拡大により、骨髄バンクの普及啓発やドナー登録推進など、各地の活動もままならない状況でしたが、社会活動の活性化とともに、ドナー登録推進活動が再開されてまいりました。多くの方と対面する説明員は、感染防止対策を十分にしているものの、高いリスクのなかでもドナー登録推進活動を継続していただいている皆様には、感謝を申し上げます。

います。
全国骨髄バンク推進連絡協議会では、かねてよりドナー登録現場における課題を解決するものとして、登録のオンライン化と採血をとまなわないウェブ登録を要望するとともに、現状の対面による説明ではなく、DVD視聴による登録方法の対応を求めてきたところです。

また、2013年より患者さんや寄付者の意向を受けて、未受精卵子の保存を支援する「こうのとりのマリン基金」、精子保存の支援を含む「志村大輔基金」を創設し、白血病克服後“いつかはママに、パパに”なる希望を抱いて病を克服していただくことを進めてまいりました。2017年以降には県行政によるがん患者への妊孕性温存費

用助成制度が少しずつ広まってまいりましたので、全国協議会では全国の患者さんに等しく助成されるような制度を求めてきたところです。

これらの課題解決に向けて、2021年の国の予算においては、実現に向けた動きが始まろうとしています。長年要望し続けてきたことでありますので、患者さんにとって明るい光ではないかと思うところです。

また、骨髄バンクボランティア活動もコロナ禍で方向性も変化をする年になるのではないかと考えられます。

全国協議会といたしましては、全国各地のボランティアさんとともに患者さんのための活動を進めてまいりたいと思いますので、皆様のご支援ご協力をさらにお願ひ申し上げます。

都道府県骨髄バンク担当者会議開催 関係機関の連携で若年層の登録増を

11月27日(金)、都道府県骨髄バンク担当者会議(公益財団法人日本骨髄バンク主催)が開催されました。骨髄バンク事業をより一層推進する為に年1回開催され、3回目となるコロナ禍の今回はオンラインで行われ、46都道府県から骨髄バンク担当者が参加しました。

会議に先立ち、厚労省移植医療対策推進室 田中彰子室長から「この会議は関係者連携の為、大切な機会である。各地域での骨髄等移植の円滑な実施に繋がっていく。新型コロナウイルス対策で大変な業務の中での対応に感謝する。骨髄バンク推進連絡協議会についても、引き続き設置をお願いしたい」との挨拶がありました。

日本骨髄バンクからは①骨髄バンクの現状と課題：2019年は献血併行型登録会での登録が7割を占めている。ドナー適合通知を送るのは19~20歳時に登録した方が多いので、若年層ドナーを増やすためSNS等で呼びかけ、学校での登録会の開催を増やして、骨髄バンク推進連絡協議会との連携も図っていききたい。②コロナ禍における対応：患者さんの為、ドナー登録推進は止めないが、説明員の健康と安全を最優先する。登録会については、学校での開催が難しいため、若年層への声掛けの機会を増やす努力をしていく。

③骨髄バンク推進連絡協議会の設置状況と事例報告：現在33道府県に設置されている。担当者変更やコロナなどの非常時にも有効に機能している。設置することで登録回数や登録者が増えた事例もある。協議会は、県と各団体が問題点を共有する機会となる。④若年層へのドナー登録の推進について：献血ルームに来る若年層が少なく、そこで登録は減っている。若年層の来場が少ない献血併行型登録会場は廃止するなど見直しの検討をしてほしい。などの報告・要望がありました。

バンクを介し移植を受けた骨髄バンクユースアンバサダーの仲田萌々香さんが初めての講演を行い、WEB上での「語りべ」開催の活用を呼びかけました。

また、事前アンケートのQ&Aでは

都道府県	協議会設置	新規ドナー登録者数		ドナー登録会開催数		学校でのドナー登録会開催数	
		2019年度	3年連続増	2019年度	3年連続増	2019年度	3年連続増
北海道	○	937		112	○	5	
青森県		1,124	○	397	○	39	
岩手県		181		17	○	1	
宮城県		1,345		187		10	○
秋田県		118		11	○	1	
山形県	○	623		65	○	6	
福島県		812		68	○	6	
茨城県	○	499		71		9	
栃木県	○	634		201		9	
群馬県		805		144	○	1	
埼玉県	○	2,006		354	○	10	
千葉県	○	2,346		370	○	69	
東京都		7,859	○	974	○	76	
神奈川県	○	3,399	○	288	○	54	○
新潟県	○	521		68	○	4	
富山県	○	536	○	90	○	3	
石川県	○	299		88	○	10	○
福井県		135		17		3	
山梨県		124		17		0	
長野県	○	597		81	○	9	
岐阜県	○	362		39	○	14	○
静岡県	○	638		70		9	○
愛知県	○	1,845		255		19	
三重県	○	292		39		1	
滋賀県	○	1,318	○	216	○	28	
京都府	○	1,186		326		49	○
大阪府	○	3,681	○	291		88	○
兵庫県	○	1,720		132		31	○
奈良県	○	1,069		188		14	○
和歌山県	○	478		100		11	
鳥取県	○	147		74	○	14	○
島根県	○	555		13		3	
岡山県	○	819		51		25	
広島県	○	1,267	○	96	○	14	
山口県	○	261		5		0	
徳島県	○	157		18		4	
香川県	○	369		89		6	
愛媛県	○	343		60		15	
高知県	○	469		55		10	
福岡県		1,476		358	○	13	
佐賀県		275		68		5	○
長崎県		346		120		27	
大分県	○	1,455	○	128	○	28	
宮崎県	○	239		48		3	
鹿児島県	○	497	○	102		19	○
沖縄県	○	432		54		1	
計		47,855	12	6,696	22	848	12
平均		1,014	26%	142	47%	18	26%

日本赤十字社、骨髄バンク

以下の報告がありました。Q：登録説明員の確保に苦慮している A：研修会は県単位で少人数でのWEB開催も可能、録画視聴も検討中である。Q：ドナー助成制度導入を促す理由付け A：登録をためらっている人の背中を押すことが出来る。全国に先駆け導入した埼玉県では、成果として平成25年以前と比較し、提供者数が35%増加した。

各地のたより
各地のたよりを写真添えてお寄せください。

山形 高校生に向けて！



山形県では2019年、全国骨髄バンクボランティアの集いを開催しました。県内からの参加者に対し、多くの学びの場を提供することができたと思います。また、合わせて日本赤十字社の献血の担当者とも交流を持つことができたのも成果の一つではないかと思えます。

11月18日(水)に米沢市にある九里学園高等学校で献血セミナーが開催されることになりました。このセミナーは毎年献血バスを九里学園に呼んでいただいているのですが、事前に「献血とは？」というセミナーを行っています。社会に出れば改めて「献血の意義」などを知る機会は少なく、「命のボランティア」とはどういうことかの説明を聞く場になります。そして、今回は同時に「骨髄バンクセミナー」を開催させていただきました。

献血セミナーにおいて、献血の重要性やどのように使用されているかの話を聞いた後なので、骨髄バンクへの登録は「究極の命のボランティア」として話をすることができました。基礎知識がほとんど無い高校生ですので、ポイントを絞って話をしました。

1. ドナー登録者は50万人に達しており、決して特別なことではなく誰でもできることだ、ということ

2. 移植数は2万4千例になっており、毎年2000人以上の患者の登録があるということ

3. ドナー登録は18歳からでき、ドナー提供は20歳からできること

4. HLA型が適合した場合でも、自分の状況を考えてその後に提供するか

どうかを決めることができること
最後に「どんな名医でもHLA型の合うドナーさんがいなければ患者さんを救うことができない」だからこそ、骨髄バンクに興味を持っていただき、今後積極的に説明を聞いてみてください、と伝えました。

若い世代だからこそ知っておくべきだと思ひ、改めて若年層への啓蒙の必要性を感じました。

(骨髄バンクを支援するやまがたの会 委員 本多作之助)

福岡 いいづか雛のまつり贈呈式

毎年恒例の「筑前いいづか雛のまつり」が2月1日(土)から3月24日(火)まで開催され、メイン会場となる福岡県飯塚市の旧伊藤伝右衛門邸には20畳の大座敷一面にお雛様が飾られます。その会場に今年も募金箱を設置してくださいました。11月2日(月)に同会場で贈呈式が行われ、雛のまつり実行委員長の瀬下麻美子様から募金箱に寄せられた73,925円が田中幸一氏(全国協議会アドバイザー)に手渡されました。また、贈呈式の様子は新聞やテレビで報道され、会場にいらした

方だけではなく、多くの方に骨髄バンクの事を知っていただく機会となりました。コロナ禍でも変わらずご支援いただいた実行委員会の皆さまに感謝申し上げます。

ドナー体験マンガが YouTube 動画に




全国協議会ニュースに掲載されたドナー体験のマンガ「ドナーちゃん」が動画となってYouTubeにアップされました。

イラストレーター「NAVIちゃん」の2回の骨髄提供の心境がかわいいマンガで語られています。ドナー体験を楽しく知って頂ける動画です。是非ご覧ください。

<https://www.youtube.com/watch?v=dhHZJ75f0eA&t=139s> または YouTube で「ドナー体験マンガ NAVIちゃん」で検索下さい。

浅野茂隆先生ありがとうございました



東京大学医科学研究所附属病院病院長、同研究所先端医療研究センター長等を歴任され、骨髄移植・骨髄バンク創世期からご活躍された浅野茂隆先生が、昨年8月12日(水)に逝去されました。享年77歳。
ここに哀悼の意を表し、ご冥福をお祈り申し上げます。
尚、追悼文は本紙2月号に掲載させていただきます。

職歴

1990年 東京大学医科学研究所先端医療研究センター分子療法分野(旧病態薬理)教授

1994年 東京大学医科学研究所附属病院病院長

2000年 東京大学医科学研究所先端医療研究センター長

2004年 早稲田大学理工学術院特任教授、東京大学名誉教授

2014年 退任

心からのご寄付に感謝申し上げます ● 11月21日～12月20日(敬称略)

●一般	●このとりマリーン基金	現金 7,152円
櫻井 成行 現金 10,000円	ノバルティスファーマ株式会社	●つながる募金
徳永 慎二 現金 5,000円	現金 100,000円	現金 14,900円
宮島 徹 現金 3,000円	●募金箱	●キモチと。
岩見 実 現金 10,000円	株式会社クスリのアオキ	現金 347円
岩見 敬 現金 1,000円	現金 587,331円	●どりサボ
匿名 現金 30,000円	株式会社マルト商事	現金 73,000円
●佐藤きち子造血細胞移植患者支援基金	現金 56,261円	
八谷 時子 現金 10,000円	株式会社カンセキ駅東店	

活動資金の支援をお願いします 銀行口座 三井住友銀行 新宿通支店 郵便振替口座 00150-4-15754
普通 5666655

口座名: 特定非営利活動法人 全国骨髄バンク推進連絡協議会